開発教育への取り組み

顔が見える国際協力・構成的グループエンカウンター

名古屋市立若葉中学校教諭　濱田 泰輔

1．お互いの顔が見える国際協力

生徒会による「世界寺子屋運動」への参加

■『ミナの笑顔』（ユネスコ），参加型学習「世界のメニュー・世界のお金」

・文字が読めないと…，マイノリティの気持ち，識字とエンパワーメント

☆ 書き損じはがきや募金は集まったが，それたけで終わりたくない！

お互いの「顔」が見える国際協力へ

■名古屋国際センター支援プログラム，バングラデシュNGO（CBO）「GRAM　BANGLA」への支援活動を開発教育の基幹に位置付ける

・コーディネーターであるカーン博士を招き，バングラデシュについて講演を実施

・「勉強することは自分を守ることです。」（カーン氏）

・生徒会の呼びかけで，文具などを集め，学校生活と日本を紹介するアルバムを制作

■参加型学習「貧困の悪循環」

☆顔が見えてきたが，バングラデシュの現実をもっと知りたい！

・教師自ら現地を体感することの必要性を感じる。

「百聞は一見に如かず」バングラデシュへ！

■”なんでも見てやろう”そして，強烈なカルチャーショック！

・グラムバングラ（カンチャンプール）を単独で訪問。バングラデシュの歴史・地理・文化についてカーン博士のレクチャーを受けた後，農村部に滞在する。現地の小・中学校を訪問し、文具などを贈る。（1997年から数回に渡って支援・交流活動を展開している。）

・現地の教員やプロジェクトのリーダーなどからバングラデシュ農村部における社会開発について意見交換。郡の役所をカーン博士とともに訪問し、カンチャンプールの架橋プロジェクトの必要性について陳情する。社会開発分野を中心とした多面的な自立支援策の必要性，ガバナンスなどについても考え，国際開発学に関する知識の必要性を痛感。

・「あなたの使命は，このバングラデシュの現実を伝えることです！」（カーン氏）

■参加型学習「フォトランゲージ」，「写真合わせ」「バングラクイズ」

・イメージと認識，ステレオタイプ化の危険性，バングラデシュは本当に洪水ばかり？，洪水の被害に遭う人たちはどんな人たち？，私たちの井戸でU5MRはどう変化？

☆伝えたいこと，考えて欲しいことはたくさんあるが，それをどう教材化するかという課題はいつもつきまとう。

☆自分と世界のつながりを意識するきっかけにするために…

☆こちらの活動をバングラデシュでも発表し，双方向の交流活動を推進したい。

生徒・地域・同僚への啓発活動とバングラデシュでの発表

■学習発表会での展示コーナーとワークショップの開催

・保護者にも開放された学習発表会で，バングラデシュの様子を写真や実物で，紹介する。

■現地の支援団体であるJAHANGIRNAGAR ROTARY CLUB DHAKAにて，日本の開発教育の事例（現場からの報告）を発表する。（2000年夏，外務大臣も参加されており緊張する。意見交換が活発になるほど語学力の壁が大きくのしかかる…）

2．開発教育を進めるにあたって考えたこと・・・

あれっ，バングラデシュの写真に思わぬ反応が！

■バングラデシュの少年たちの映像に生徒の見下した冷笑…。開発教育と並行して「心の耕し」の必要性を痛感！まずは，身近な人間関係から。

構成的グループエンカウンターと開発教育

■開発教育についてもう一度整理　（身近な生活から世界への広がり）

※　参加型学習のHow toの前に，何をねらいとする活動なのか，教師が意識する必要がある。また，「気付きの強制」にならぬよう注意し，失敗を恐れずまずやってみる。

開発教育のグローバルコンセプト

開発教育

- 相互依存
- イメージと認識
- 社会正義
- 対立とその解決
- 変革と未来

相互に補完

「ユニセフの開発のための教育」

■「構成的グループエンカウンター」をタイムリーに取り入れる

・構成的グループ・エンカウンター（ＳＧＥ）とは，体を動かしたり話し合ったり共同作業をするなど様々な演習（エクササイズ）を通して、自己理解や他者理解、自己主張、信頼体験，感受性の促進を達成する集中的なグループ体験。その目的は，・自己との出会い（自己開示、自己理解），・他者との出会い（他者理解、他者受容），・支え合う人間関係づくり（信頼・共感），・豊かな人間関係づくり（コミニュケーションスキル），・豊かな感受性にある。

－ＳＧＥやピア・サポートは，開発教育と共通する部分が多い。－

生徒との接し方，教科・学級指導，教師の生き方そのものも大きく影響

3．「総合的な学習の時間」と開発教育［実践は，現在進行中です。］

「コース別学習活動」と開発教育の試み　（各種機関との連携）

■「国際理解入門コース」（2001）・「国際協力コース」（2002）の開講

・名古屋国際センターでの国際交流活動（ルーマニアからの留学生）
・「中部地球フェスタ」に参加し，ＪＣＢＬ地雷撲滅キャンペーン、バングラデシュのカレーづくりなどのワークショップに生徒と共に参加する。
・生徒の追究活動をプレゼンテーション形式で発表し合い，情報発信を学習活動に取り入れる。
・参加型学習「貧困の悪循環」，「新・貿易ゲーム」，「フォトランゲージ各種」，「難民のカバン」などを実践する。
・サーモンキャンペーン，JICA中部国際センター訪問，「エッセイコンテスト」応募
・新聞記事や食料品広告などを利用し，身近な生活から世界とのつながりを意識する。

■修学旅行にて、「国際理解コース」を設ける。

・国際協力事業団（新宿）、ユニセフハウス、フォスタープランを訪問する。

■ドミニカ共和国研修での体験を生かし，啓発活動と開発教育を実践中

・JOCA（青年海外協力協会）のワールドボックス（ドミニカ共和国）も活用する。

開発教育への取り組み

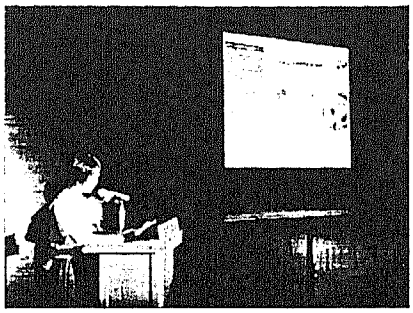
顔が見える国際協力・構成的グループエンカウンター

2002年秋までの取り組みについて

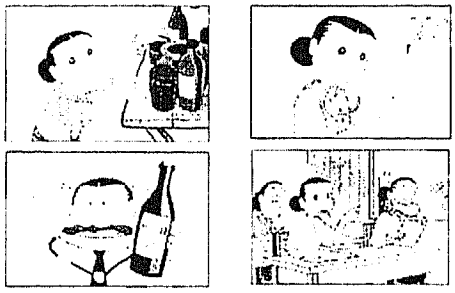
名古屋市立若葉中学校　教諭　濱田泰輔

報告書における本校生徒の肖像使用については，了承を得ていますが，許可なく他への転載はご遠慮ください。

「識字」は，開発途上国に目を向けるひとつの入り口



総合学習（国際理解入門コース）で名古屋国際センターを訪問した生徒会のメンバーが中心となって，生徒集会で世界寺子屋運動を紹介する。（写真は平成14年度）



ビデオ教材「ミナの笑顔」は、ユネスコ・アジア文化センターの十数年来の識字事業の経験を元に制作された。
世界35か国で翻訳され、各国の識字クラスで利用されたり，テレビで放映されている。（識字について理解するのに最適な教材のひとつといえる。全校集会などでも視聴可能）

トイレに行きたい！どの表示？

ভিতর
বাহির
ধুমপান নিষেদ
হোটেল
বাস
শৌচাগার
মহিলা
পুরুষ

「文字が読めないということはどういう状況になるんだろう」当たり前のように読み書きしている生徒たちには，なかなか実感がわかない。そこで，外国の言葉で書かれた標識，メニューや紙幣などを利用して，感じ，考えさせることもできる。

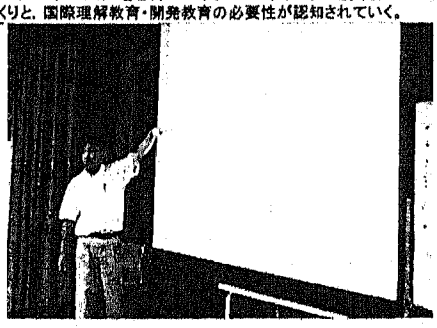
「文字が読み書きできることによって自分を守る」というバングラデシュの支援先人々の言葉の意味は，エンパワーメントを強く意識していた。

（左は，ベンガル語）

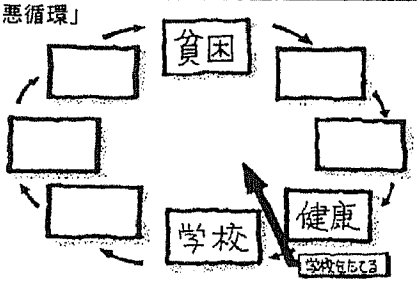
ভিতর	Enter
বাহির	Exit
ধুমপান নিষেদ	No Smoking
হোটেল	Hotel
বাস	Bus
শৌচাগার	Toilets
মহিলা	Ladies (also bus seats reserved for women)
পুরুষ	Men

いきなり日本語訳を使うのではなく，英語を介してみることもできる。
（今年度は，英語科と社会科のクロスカリキュラムでバングラデシュクイズを実施）

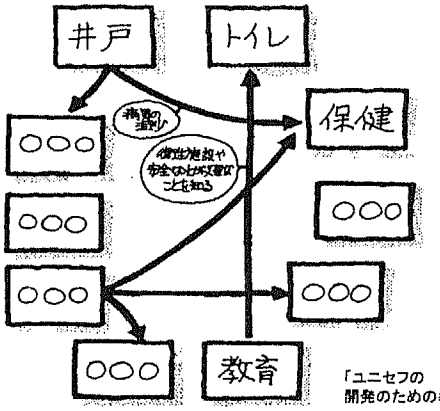
学校事情から，総合学習や選択教科の中で継続して開発教育を進めることが難しかったら，学級活動や従来の教科学習の中で試みることから始めてみる。同僚とコミュニケーションをとり，T・Tやクロスカリキュラムを実践していくと校内にゆっくりと，国際理解教育・開発教育の必要性が認知されていく。



「貧困の悪循環」

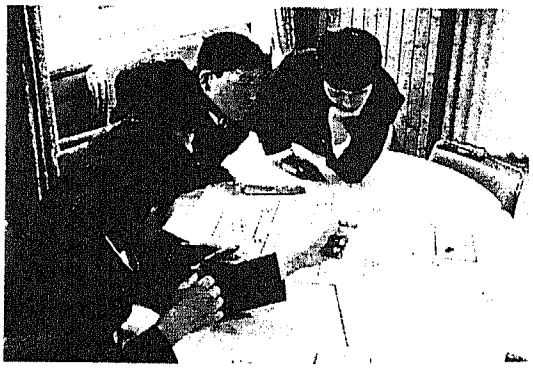


NGO「シャプラニール－市民による海外協力の会」が製作した開発教育ビデオ『わたしの国・わたしの村－バングラデシュ』との併用も効果大。募金活動へのイベント的参加だけでは，表面的・心情的な活動で終わってしまう。「識字」，「貧困の悪循環」などについて，学校や社会教育の場で扱う必要がある。



「ユニセフの開発のための教育」

活動を通して，生徒自身が知ったり，感じたり，考えたりする事が大切。生徒の気づきが深まらないうちに教師が一方的に結論をまとめすぎると，「気づきの強制」に終わってしまう。(よく失敗します。)



参加型学習は，試行錯誤の連続。でも，まずやってみる！

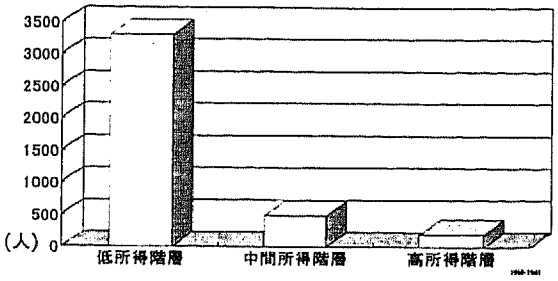
いざ，バングラデシュへ！「百聞は一見に如かず」

名古屋国際センターから，バングラデシュデシュのCBOを紹介していただく。積極的に連絡を取り合い，個人として，教師として，現地での視察だけでなく協力活動にも参加させていただく。

雨季，ダッカが近づくと洪水の様子がよく分かる。(機中から)

緑の大地がまぶしい！バングラデシュは，年中洪水ではない。乾季は，水にアクセスしにくい地域もある。経済的な面だけでなく，大自然に左右されやすい地理的条件を学ぶことも必要である。

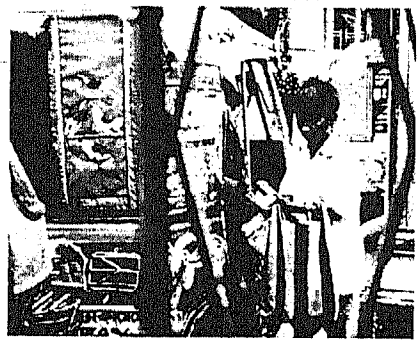
災害１回あたりの死亡者数



単なる洪水の被害者数ではなく，視点を変えると何かが見えてくる・・・

Forecasting, Preparedness and Other Operational Measures for Water-Related Natural Disaster Reduction in Asia and The Pacific (Water Resources Series No.69 United Nations)

簡単なフォトランゲージの例（1）



場所，乗り物，少年は何をしているか，どうしてか・・・など
（自分でシャッターを切った写真は，その臭いや音までも語ることができる。）

簡単なフォトランゲージの例（2）

岩石が少ないバングラデシュでは，焼いたレンガを砕いて建築材料に使う。少年や女性がその労働に従事することも多い。

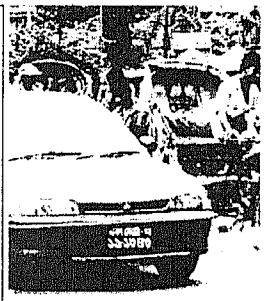
展開例

どうしてわざわざレンガを砕くのか？
↓
誰がその労働をしているのか？
↓
同じ年代の人たちはどんな生活をしているか？
↓
調べよう，話し合おう，比較しよう，発表しよう
↓
何を感じた？（振り返り）
↓
貧困の悪循環をもう一度見て，考えたことをまとめてみよう。どうしたら，バングラデシュのカンチャンプール村の子ども達がみんな学校に行けるのだろう？

簡単なフォトランゲージの例(3)

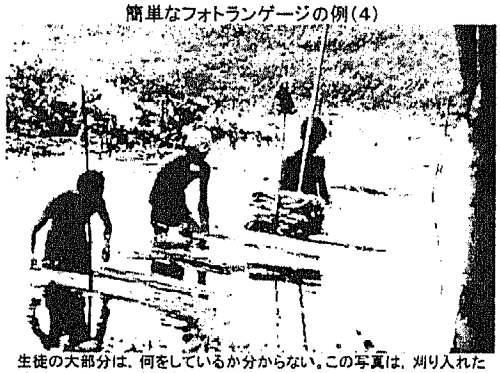
この部分がどんな様子か想像し，その理由を発表し合う。

実際の写真を見て，先入観はなかったか，あるならばどんなところにあったか，どんなところに発見があったか，そこから考えたことは何か・・などに発展できる。

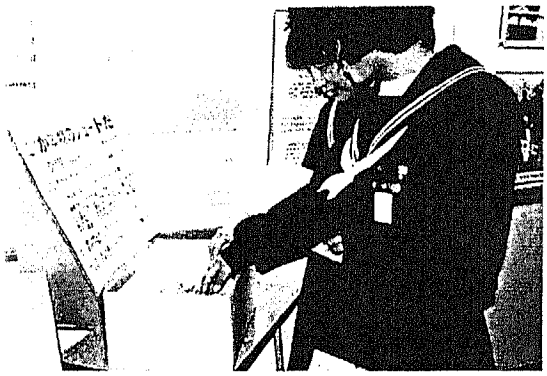


お金持ちの人の車にバクシーシを求めて人が群がる様子(ダッカ)

簡単なフォトランゲージの例(4)



生徒の大部分は，何をしているか分からない。この写真は，刈り入れたジュートを河川や池の水に浸し，強い繊維質の部分だけを残している様子。本物のジュートと組み合わせて授業に生かすと理解が深まる。



本物のジュートに触れてみる。(写真は文化祭展示)

私たちの協力でできた小学校にある井戸

写真やデータ(「世界子ども白書」など)を組み合わせると，安全な水へのアクセス，BHNについて調べ，考えたりする活動にも発展できる。

支援先の小学校の様子

日本の生徒たちの質問を直接現地でインタビューできることは大きなメリットでもある。

貧困だけを強調するのではなく，バングラデシュの人々の生活について紹介することも大切である。説明するだけでなく，生徒の気づきを促し，生かす手だても必要である。

「顔が見える国際協力」(文化祭にてバングラデシュの展示)

この写真を見た新1年生が軽蔑と冷笑・・・・
「あいつら裸足だがや，どえらい貧乏だがや！」

転任後のこと，小学校時代学級崩壊を経験していた新入生にこのバングラデシュの写真を提示したら・・・，胸が痛む思い，いやな雰囲気・・・・—「身近な人間関係から！」
これ以後，「心の耕し」として構成的グループエンカウンターをタイムリーに継続する。

《構成的グループエンカウンター（SGE）》

ファシリテーターの指示した課題をグループで行い，そのときの気持ちを率直に語り合うこと「心と心のキャッチボール」を通して，徐々にエンカウンター体験を深めていく。

○ 自己理解　○ 他者理解　○ 自己受容
○ 感受性の促進　○ 自己主張　○ 信頼体験

構成的グループエンカウンターは，人間関係づくりに関して理論的背景をもっており，教育現場の要求に対応できるエクササイズを豊富にもつ。校種別，分野別，場面別と体系化しつつある。

※　短時間の授業では，参加者全員の深いエンカウンター体験は難しく，教師の力量も必要である。SGEは，開発教育とも共通した部分をもち，「治療的な教育相談」というより「開発的な教育相談」の手法の一つと考えている。

参考　「エンカウンターで学級が変わる　小学校編1～3　中学校編1～3　高等学校編」國分康孝監修（図書文化）
「エンカウンター」國分康孝 著（誠信書房）　など

開発教育のグローバルコンセプト

- 相互依存
- イメージと認識
- 社会正義
- 対立とその解決
- 変革と未来

ユニセフの「開発のための教育」

OBJECTIVES: The 4 Dimensions of Global Education

☐ KNOWLEDGE
about world peoples, countries and cultures
about world problems, their causes & solutions

☐ SKILLS
communication skills　critical & creative thinking
problem solving　multiple perspectives

☐ ATTITUDES
worldmindeness　appreciation of other cultures
curiosity　tolerant　altruism(利他主義)

☐ ACTION
personal involvement in working for a better world

Course Title: Global Issue　Teachers College MA in TESOL
Columbia University (Tokyo Campus)　Fall Semester 1998

Objectives for World Studies

Knowledge
Ourselves and others　Rich and poor
Peace and conflict　Our environment
The world tomorrow

Attitudes
Human dignity　Curiosity
Appreciation of the cultures
Empathy　Justice and fairness

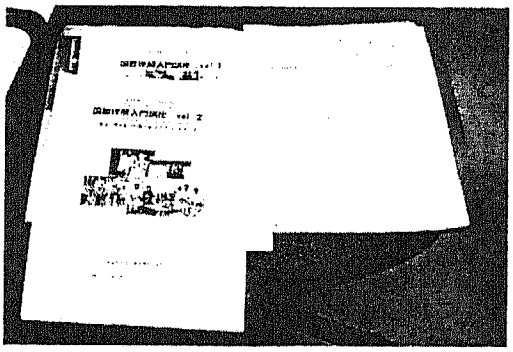
Skills
Enquiry　Communication skills
Grasping concepts　Critical Thinking

World Studies　A Teacher's Handbook
Simon Fisher　David Hicks

「総合的な学習の時間」と「開発教育」「コース別学習活動」での試み

総合的な学習の時間では，1コース20人程度のコース別学習活動を実施している。(毎年2学期)
これまで，「国際理解入門」(2001)・「国際協力」(2002)を開講した。

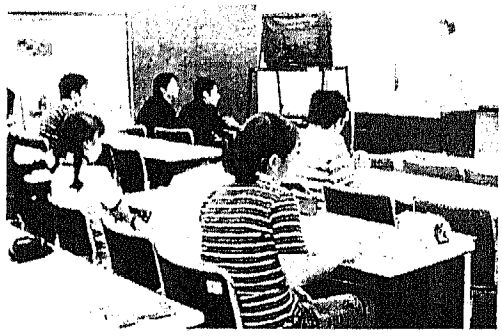
- 全生徒に各コースのガイダンスをていねいに行うことが望ましい。じっくり「種まき」をした後で生徒の興味・関心に基づいて選択させたいが，実際は時間がなかなかとれない。
- 各教師の専門性を活かし，ていねいな指導・助言ができる。
- フィールドワークの日を設定することも可能である。
- 発表し合うことで情報発信力を伸ばし・情報を共有できる。
- 尻込みしていた同僚と学び合う機会にすることができる。
- 単発にならないように，計画性が必要である。
  時事問題を基幹教材にしながら開発教育を進めていくこと も可能。(時間の確保，十分な準備)
- 生徒が生き生きと活動できる。何か行動したい生徒もい るが，それに対する助言が難しい。



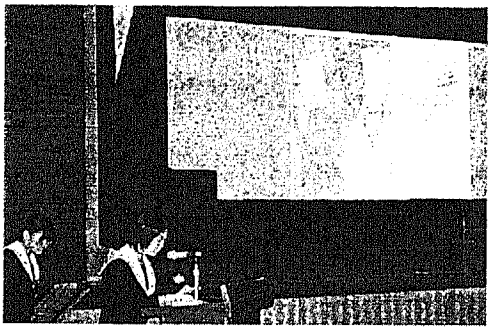
準備が大変だったが，世界の諸問題の概要と参加型学習の振り返りシートなどを2冊の小冊子にまとめ，学習を計画的に進めた。生徒は資料をクリアファイルに整理していった。

名古屋国際センター

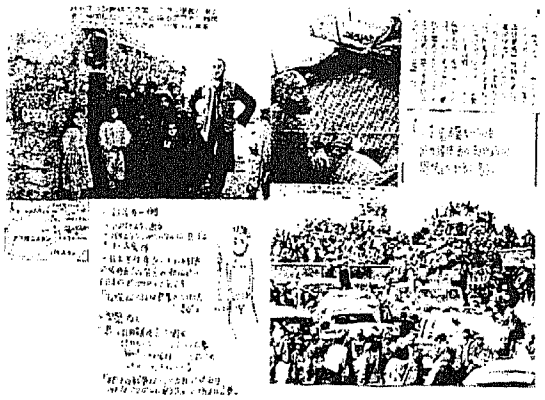
ルーマニアからの留学生との交流　(名古屋国際センター)



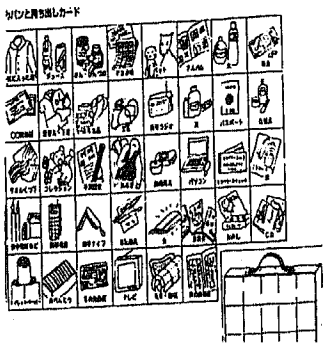
自分でテーマを決め，「中部地球フェスタ2001」地雷撲滅キャンペーンJCBLのコーナーに参加した生徒たち



追究活動の発表では，パワーポイントの操作を指導し発表した



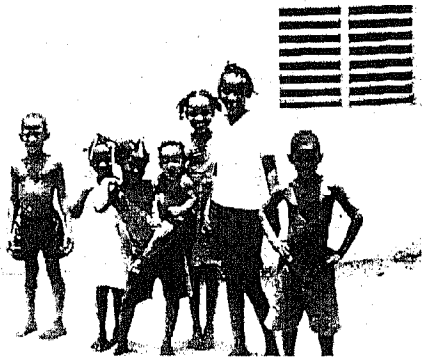
「難民のカバン」（展開例）



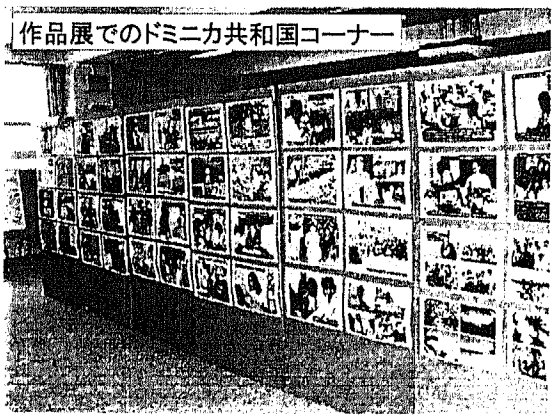
今，欲しいものは？
↓
難民の発表を受けて
「難民キャンプ」を実施
↓
15個×2つのカバン
↓
15個捨てて，1つのカバン
↓
入国管理でパスポート必要
どうするか・・・
↓
欲しいものと必要なもの
↓
BHNを考えよう，調べよう
↓
国際協力とは？

難民・BHN・社会開発の国際協力

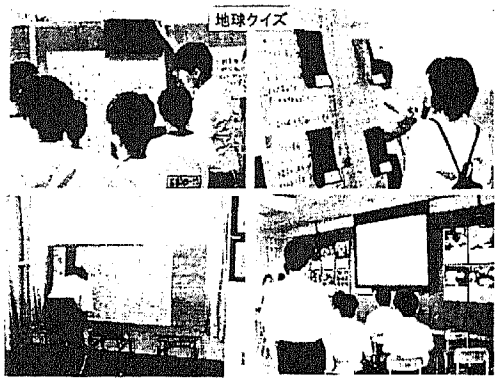
平成14年度　海外教師派遣に参加（ドミニカ共和国）



作品展でのドミニカ共和国コーナー

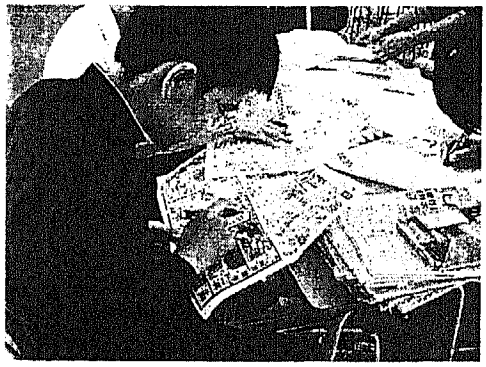


JOCAからお借りしたワールドボックスも活用



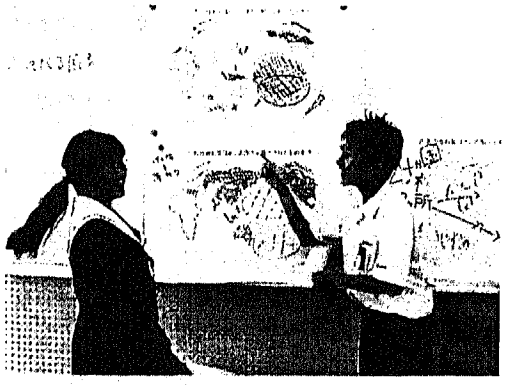
地域の方々や同僚，他学年の生徒への啓発効果はゆっくりと・・・

身近な新聞や食料品の広告から世界とのつながりを考える



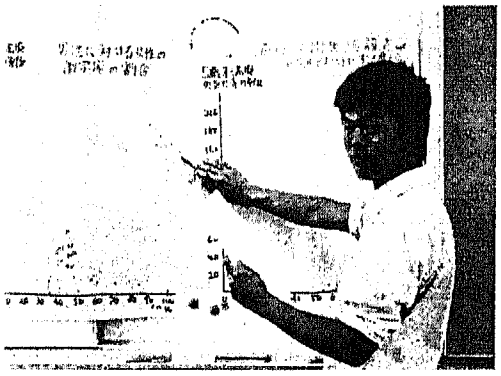
3年生ともなるとグループワークもスムーズ

新聞記事に72ヵ国の国名を見つけた



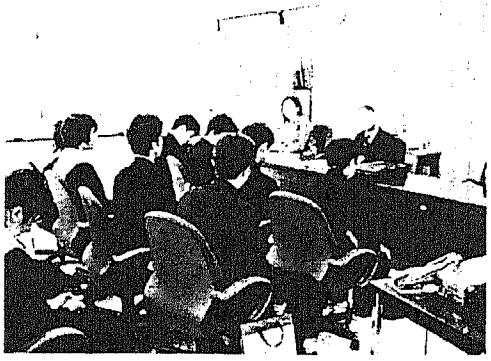
国際協力コースを選択した生徒は，いつも元気でやる気満々！活動が楽しい！

5歳未満児の死亡率と様々な要因との相関関係を探る



アイデアを生かして様々なフォトランゲージを用意

【JICA中部国際センター訪問・サーモンキャンペーン】



海外からの研修員との話が続く(中部国際センターの食堂にて)

元JOCVと熱心に話す生徒たち
生徒の進路に少なからず影響を与えたようだった。

まだまだ実践は続くが・・・

- ネタをもっと生かす工夫
- 開発教育と参加型学習
- 心の耕しと構成的グループエンカウンター
- 親や教師の背を見て子は育つ
- 環境教育,「持続可能な社会」
- 知識に終わらせない行動力
- 啓発活動(生徒・同僚・保護者・地域)
- ネットワーク・エンパワーメント
- 忙しいけれど・・・自己研鑽, 好奇心

※ 帰国報告は http://www.jica.go.jp/classroom/kikokugo/hamada.html

「未来を創るのは, 私たち一人一人です」

名古屋市立若葉中学校
教諭　濱田泰輔

総合学習における開発教育の取り組みについて

平成14年度中学校教師海外研修（ドミニカ共和国）を生かした授業計画について

名古屋市立大高中学校　　豊福　数壽

1．開発教育の視点から

開発教育とは、1960年代から生じた国際協力活動への理解や支援を呼びかける内容であり、1970年代以降、「開発教育」として位置づけられるようになった。もともと、「第三世界」や「開発途上国」と呼ばれる国々への関心や問題意識から生まれた教育活動であり、南北問題や国際協力などが開発教育の取り扱う学習内容になっていた。

近年、開発・環境・人権・平和・文化といった問題が相互に密接に関係しており、「開発途上国」で生じている問題が、「先進国」に暮らす人々の生活や社会とも関係していることが明らかになっている。その結果、今日の開発教育は、共に生きることのできる公正な地球社会に向けて、解決が待たれる多くの問題を「知り」、その原因や解決策を「考え」、一人一人が「行動していく」ための活動として、位置づけられている。

開発教育協議会は、開発教育を「私たち一人一人が開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動」と定義づけている。また、開発教育を具体化するために、5つの目標を示している。①開発を考える基礎として、人間の尊厳性と世界の文化の多様性を理解すること　②世界各地に見られる貧困や南北格差などの開発の現状を知り、その原因を理解すること　③開発問題と環境破壊などの地球的諸課題との密接な関連を理解すること　④開発をめぐる問題と私たち自身との深い関わりに気づくこと　⑤開発をめぐる問題を克服するための努力や試みを知り、それに参加できる能力と態度を養うこと

開発教育では、学習結果よりも学習過程を重視しており、子どもと教師が共に話し合う中で、開発問題の現状、原因を理解し、解決方法を考えるという過程の中での学びを重視している。そのため、学びを生み出す過程を設定する学習方法が大切である。

開発教育では、「参加型学習」と呼ばれる学習方法を生かしながら、国際社会や身近な生活や地域の中で、実際に起きている問題や現象を学習の材料としている。参加型学習は、「学習者が、その学習過程に、単に受け手・聞き手としてではなく、自主的に協力的に参加することをめざす学習方法」と捉え、参加型学習を進める活動として、ランキング(優先順位付け)、シミュレーション(模擬体験)、ロールプレー(役割学習)、フォトランゲージ(写真の読み解き)、プランニング(計画づくり)、ディベートなどを提案している。　※開発教育ブックレット『いきいき開発教育』(開発教育協議会)より

2．開発教育のカリキュラムの視点から

（1）文化理解アプローチ

開発教育の前提となる人間の尊厳性や世界の文化の多様性を理解する。

（2）課題分析アプローチ

地球社会の各地に見られる貧困や格差の現状を知り、その原因を理解する。

（3）関係理解アプローチ

私たち自身あるいは身の回りのものが、開発をめぐる問題や地球的な課題とどのような関わりにあるのかを理解する。

（4）課題解決アプローチ

特定された課題について、これをどのように解決していくかを考える。

3．平成14年度中学校教師海外研修（ミニカ共和国視察）を通して得た視点から

（1）保健医療

高い乳幼児死亡率、妊産婦死亡率を抱える途上国の保健医療の現状とその課題に取り組む援助活動の視察。

（2）基礎教育

政府の教育予算や教員の不足、貧困・男女格差などのために教育機会が限られている子どもを多く抱える途上国で行われている様々な教育援助の視察。

（3）ジェンダー

就学・就業の機会の男女格差是正、女性の経済・社会活動のエンパワーメントなどの課題に取り組む専門家やボランティアの活動の視察。

（4）自然環境保全

環境の悪化・生物多様性の減少などの自然破壊の進展を防ぎつつ、持続可能な開発のために行われている様々な協力の現状視察。

4．総合学習における開発教育の授業計画について

（1）テーマ　「中央アメリカの国　ドミニカ共和国」

「総合的な学習の時間」小講座（国際理解・第1学年）

（2）目標

中央アメリカにあるドミニカ共和国の位置や国内の様子を調べ、国内に様々な問題を抱えている開発途上国の現状を理解する。開発途上国であるドミニカ共和国には、日本やスペインなどの国際援助の活動が行われていることを知り、国際援助の活動のあり方について、自己の意見や考えをまとめる。

（3）指導計画（4時間完了）

① 第1時「ドミニカ共和国を知ろう」

・ドミニカ共和国の位置と様子
・アメリカ野球で活躍するドミニカ人
・ニューヨークでの3Kを担うドミニカ人
・経済発展の都市と貧困の農村
・さまざまな問題を抱える開発途上国

② 第2時「開発途上国と先進国を体験しょう」

・貿易ゲーム
・開発途上国と先進国の違い

③ 第3時「開発途上国への援助は必要か」

・ビデオ教材「発展途上国ってどんな国？」
・ドミニカ共和国に対する各国の援助活動
・ＪＩＣＡの活動
・ドミニカ共和国で援助活動を行う日本の人々

④ 第4時「ドミニカ共和国で活躍する日本人」

・ドミニカ共和国で活躍する青年海外協力隊員からのＥメール
・Ｅメールへの感想や意見
・Ｅメールを利用して意見交換

拝啓

名古屋市立大高中学校１年生の皆さん、始めまして。こんにちは。

私は現在、ドミニカ共和国で青年海外協力隊員のソーシャルワーカーとして活動している、菊池みずほと言います。1999 年 12 月にこちらに来ました。日本を離れてから約２年間こちらで生活をしていることになります

８月に豊福先生がドミニカ共和国を訪問され、お話をしました。

今年の夏は、とても暑いと聞きます。皆さんは、元気に新学期を迎えられましたか？

私が勤務する“ソンリサ”(Sonrisa はスペイン語で“笑顔”を意味します。) 歯科診療所は約 10 年前にカナダ人歯科医師、エリーナ・カツマンが創始した NGO “*Smiles Foundation*(英語)”です。首都サント・ドミンゴに３ヶ所、地方都市サンティアゴ、プエルト・プラタ、モカ、イグエイに４ヵ所、移動歯科診療車を所有するのまでに活動を広げてきました。その中でも最初に診療所を開所したサント・ドミンゴ西部エレーラ地区が私の主な活動先です。ここに暮らす多くの人達は地方出身者で、親戚や友人を頼って首都に仕事を求めてやって来た人達です。ですから、低所得者層の人達が生計を立て暮している地域です。

当診療所は、名前の由来どおり多くの子供達が“ソンリサ・Sonrisa”を持ち続けられるよう、13 歳以下の子供達には低額で歯科診療を提供しています。

また、ドミニカ人スタッフや、カナダ人ボランティアと共に地域の学校、教会、婦人団体などで歯科衛生及び保健衛生教育一般の知識伝達はもとより、エイズ及び性行為感染症予防、ドメスティックバイオレンス防止啓発活動、児童虐待防止、若年層の妊娠予防等の教育プログラムを展開し、各講習会の企画助言、また有効的な教材準備等が、私の活動の主な内容です。

―“シングルマザー”、２５歳で８人の子持ち。愕然とする現実―

「お手伝いさんは 25 歳なの。彼女は、何人の子持ちだと思う？」同僚からの質問でした。子供の数が多いだろうとは予想していましたが、８人とは、想像のつかない数字です。その上、父親がそれぞれ違うというではありませんか。信じられない現実に、愕然とするばかりです。

ドミニカ共和国を始めとするカリブ諸国では、家族形態を形成する内３５％の割合で女性が家長をつとめていると言われています。いわゆる、シングルマザーが、多くの割合を占めているのです。

―10 歳代の妊娠―

小中学校で生徒達の診療にあたっている歯医者さんから、「女性徒が 10 歳代で妊娠し、問題になっている。性教育をテーマに講義を開いて欲しい。」と、私達の NGO に依頼がありました。その学校では、昨年１年の間に 14 歳以下の女性徒が４名妊娠し、勉強を続けられなくなったというのです。14 歳といったら、皆さんと同じぐらいの年齢です。

また、友人がホームステイをしているお家のお手伝いさんは 19 歳です。隣国ハイチとの国境付近の出身者で、２人の子持ち、もちろんシングルマザーです。多くの場合、首都に住むお金持ちの家で住み込みのお手伝いさんとして働いている女性達は地方出身者です。残してきた彼女の子供達は、田舎の彼女の両親が育てています。彼女は、字が読めませんでした。仕事が無い時に、読書をすることも、雑誌を見ることも出来ません。また、地方出身者の彼女は、友達と遊びに行って気分転換をすることも難しく余暇は、ずっとテレビを見ることしか出来ませんでした。

日本では各学校に保健室があり、先生が保健衛生のことを教えてくれます。しかし、そのようなシステムが統一されていない為、多くの若者は、正確な知識を学ぶ機会がありま

せん。その上、家族の生活の為に小さな頃から働かなければならない若者も多く、学校での勉強を続けられないケースも珍しくありません。このような結果から、10 歳代の妊娠。子沢山による貧困。ＨＩＶを始めとする性行為感染症の流行。と、悪循環から逃れられなくなります。そして、多くの場合、女性が被害の対象になっている事は言うまでもありません。

このように、女性の社会的地位が低い原因として、学校での性教育の啓蒙が皆無である事と、男性優位のマチスモ文化との二つの要因が大きく影響していると、私は思います。

日本で生活していた頃は正直、宗教について深く考えた事はありませんでした。しかし、当国は 94%をカットリック教者が占める旧教国家でもあります。このような宗教的背景の中では、望まない妊娠に対する人工妊娠中絶は行なえません。

今後は、カトリックへも配慮し、男女を対象とした若い世代からのリプロダクションヘルスの予防啓蒙活動はより重要になってくると思います。もし多くの若者が正しい知識を持っていたら、望まない妊娠や、HIV を始めとする性行為感染症の流行を防ぐことになると思うからです。

—私の思うこと—

青年海外協力隊に参加するまで、私はこのような現実があることを知りませんでした。今の日本では、インターネット、テレビ等、様々な方法で現在起こっている世界中の出来事を知ることが出来ます。しかし、日本に居た頃の私は、テレビのニュース等から流れる様々な国のことや、インターネット上での画面等を、ただ見ていただけだと言うことに気が付きました。だから、知らなかったのです。

だからといって、皆さんに「途上国へ行って同じことを経験しよう。」と、言うのではありません。世界の中には様々な人達が暮らしているということを、見るだけではなく、知って欲しいと思うのです。

歯科検診や、講習会で訪問した学校、診療所に治療に訪れる子供達、学校の夏休み期間を利用して行なったサマーキャンプなど。多くの場面で、多くの子供達に出逢い、多くの笑顔（Sonrisa）に出逢いました。これは、私の活動の“元気の基”になっています。

「将来の夢は？」「お医者さん」「警察官」「技術者」「日本へ行きたい。」等など。子供達の夢は皆さんと変わりません。生まれた国が違うだけなのです。

子供達が笑顔（Sonrisa）を持ち続けられ、それぞれの夢を実現する為に暮らしていくには強い意志だけではなく、彼らを取り巻く環境も大きく影響してくることでしょう。多くの困難が待っているだろうと思うと、いたたまれなくなります。

しかし、多くの子供達が自分達の生活や将来を諦めること無く、健康で平和に暮らしていけることを、私は願ってやみません。

今回、名古屋市立大高中学校１年生の皆さんにメールではありますがお話することが出来、豊福先生にとても感謝しています。

皆さんの未来はこれから限りなく広がっています。既におばさんになってしまった私からは、とっても羨ましいです。

ドミニカ共和国での活動の様子がわかると思い、当 NGO の活動の様子と、子供達の笑顔・Sonrisa を何枚か写真を添付させてもらいます。長いメールになってしまったことをお許し下さい。

敬具

ドミニカ共和国
青年海外協力隊員　菊池　みずほ

「自ら学び参加する力」を育む場を作る
NIED・国際理解教育センター
Nagoya Institute of Education for Development
〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通り 5-21-2 ライフピア本山 3F
TEL 052-789-1551 FAX 052-789-1552

＊国際理解教育ってなあに？＊

長い間「国際理解」は国際交流、外国語の修得、外国の文化を知ることと結び付けて考えられてきましたが、わたしたちが推進する「国際理解教育」は、ユネスコの１９７４年勧告（国際理解／国際協力および国際平和のための教育、ならびに人権および基本的自由についての教育に関する勧告）を基本にしています。

自分との関わりにおいて地球の課題（人権・環境・開発・異文化理解・平和・未来など）を包括的に理解し、知識だけではなく、共通の未来・公正な地球社会作りに「参加する技術」「参加する態度」を養おうという総合的な教育活動です。

知識は大切ですが、それ自体が社会に対して責任ある行動を生み出すのではありません。国際理解教育は、知識そのものよりも得た知識や体験から気付いたことを、どのように活かすことができるかを共同作業で探ることに重点を置いています。

そのために、一方通行ではなく双方向の対話形式・参加型（ワークショップ）という形で、お互いの知識や経験、気付きから学び合うことを重視します。

ワークショップは、対等な関係で集まった人々が共通のテーマで考えを深め合い、気付きを行動へつなぐプロセスを提供します。

近年、学校教育においても、社会教育においても、参加体験型学習（研修）への関心が高まっていますが、参加して学ぶことの良さは第一に「楽しく学べる」ということです。人は「楽しい」と感じる、信頼に満ちた自由な雰囲気の中で、最も多くに気付き学べると言われています。

また「自ら考える」「協力して創り出す」ことを繰り返し体験する中で、コミュニケーションの力、分析的な思考力、合意形成能力、課題解決への意欲といったものが、少しずつ養われることをねらいとしています。人類共通の未来を共に築くためには、一人一人の責任ある参加が不可欠だと考えるからです。

＊NIED・国際理解教育センターについて＊

１９９２年　「国際理解教育あいち」として発足した非営利の民間教育団体
１９９８年　事務所移転に伴い「NIED・国際理解教育センター」と名称変更
行政、民間団体からの依頼により参加型研修および国際理解教育のプログラム作成、
ファシリテーター派遣、参加型学習のプログラム相談、資料情報提供などが主な事業です。

行政職員、教員、ボランティア、児童、学生、親子など、対象をしぼった参加型研修の依頼を受け、県内外教育委員会、国際交流団体、生涯学習センター、NPO、小・中・高校、大学などへ出かけています。

私たちが大切だと考えるのは、
一人一人が個別に持つ能力と持ち味を最大限に活かし、
自分自身や自分たちの暮らす社会（家族も地域も地球も）に心を配り
共通の未来を築く力を身につけること。
NIEDは「自ら学び、参加する力」を養うために、
一方通行の知識伝達ではなく、互いに学び合いながら「知恵」を育て合
「共育」の場と方法を提供したいと考えています。

＊2001年　NIED・国際理解教育センターへの依頼＊

＊国際交流団体及び行政機関からの一般対象講座依頼＊

・国際理解親子講座「地球の味方」　（継続５年目）	愛知県国際交流協会主催
・あいち環境教育フォーラム２００１	愛知県
・国際理解「ジュニア国際カレッジ」　（継続５年目）	名古屋国際センター
・愛知県国際交流協会ボランティア研修　（継続４年目）	愛知県国際交流協会
・一宮市国際交流協会ボランティア総会国際理解 WS（継続２年目）	一宮市国際交流協会
・豊明国際理解ボランティア研修	豊明市国際交流協会
・静岡市国際理解ボランティア研修	静岡市国際交流協会
・浜松国際理解親子ワークショップ	浜松市国際交流協会
・尾西市国際理解親子 WS	尾西市国際交流協会
・東海市国際理解教育 WS	東海市国際交流協会
・鈴鹿市国際理解のつどい	鈴鹿市国際交流協会
・第７回高校生国際協力実体験プログラム	JICA 中部国際センター
・春日井市民環境ゼミナール	春日井市環境課
・静岡環境リーダー研修	静岡市環境課
・地域と家庭　おとなとこども　男と女をつなぐ WS	天白区
・環境ワークショップ	長野飯島町

＊行政職員研修／教員研修依頼＊

・愛知県市町村国際交流担当職員研修「テーマ：評価」（継続４年）	愛知県国際交流協会
・香川県学校同和教育夏期研修講座　（継続４年）	香川県教育委員会
・香川県社会同和教育指導者実践講座「参加型で学ぶ人権」（継続２年）	同上
・男女共同参学習アドバイザー養成講座（継続２年）	同上
・新城市職員 ISO 環境研修	新城市
・日進市環境まちづくり職員研修（全７回）	日進市
・国際協力事業団開発教育教員研修	国際協力事業団（JICA）

＊名古屋市生涯学習センター主催講座＊

・緑区　「地域と世界をつなぐ　国際理解講座」　（５回講座）
・港区　「環境まちづくり　みんなの知恵を持ち寄って」　（５回講座）
・千種区　「アジア講座」　（８回講座）
・守山区　「女性セミナー」　・天白区　「環境講座」

＊その他の依頼＊

・リアルバレンタイン WS 「チョコレートから世界が見える」（継続４年）	フェアトレードショップ風 's
・感じて知る世界の食料事情「ハンガー・バンケット」	同上
・「開発教育を平和教育にいかす」	名古屋平和学会
・親子で考える国際理解	親業の会
・みえ地球市民フォーラム（人権：バリアフリー／こども）	みえ地球市民フォーラム実行委員会
・こどもの参画サポーター養成講座	こどもＮＰＯ
・人権からみた国際理解	静岡開発教育 FAN クラブ
・名工大オープンカレッジ「２１世紀の宇宙船地球号の乗り方」	名工大
・ＰＴＡ教養講座「自尊感情」「コミュニケーション」「ジェンダー」	富士見台小／自由が丘小／陽明中
・子育てワークショップ	子育て環境を考える市民グループ　トライアングル

WHAT'S　国際理解教育？

★社会の変化とともに変化する　新しい学習課題に取り組む力★

生命・健康・人権・豊かな人間性・家庭・家族・地域・まちづくり・高齢化・女と男・消費・交通・産業雇用・廃棄物・国際交流／国際理解／国際貢献・開発援助・人口・食糧・環境・資源・エネルギー　等
これらは現代の社会および国際社会の共通の課題。

「変化」が「常態」となった社会では、誰もが学齢期に学ばなかったような課題が次々と出てきます。新しい課題に取り組むとき有効に働く力は、自分自身を見つめ受け入れる力（自己理解）／相互理解のためのコミュニケーション力／共に生きるために共働する力　だと考えます。

国際理解教育は地球の課題が何かを理解し、「知識」だけではなく共通の未来・公正な地球社会作りに「参加する技術」「参加する態度」を養おうとする総合的な教育活動です。

多様な学びの場が用意され学びが大切にされる。大人こそが学び続ける社会が未来への鍵では！？

★国際理解教育が大切だと考える３つの基本的な力★

＊「セルフ・エスティーム」…「自信の持てる大切なわたし」という日本語にはない概念です。ありのままの自分を見つめ受け入れ、価値ある者と大切にすることができ、「わたし」に自信が持てる。健全なセルフエスティームがあってはじめて、他者を大切な者と尊重することができ、共感が生まれるのでは。他者のセルフ・エスティームをも認め受け入れられる点で、エゴとは決定的に異なります。

＊「コミュニケーションの力」…自分の考えや気持ちを伝える力／人の考えや気持ちを聴く力／考える力・・・。もっと言えば、攻撃的ではない主張／妥協／交渉／歩み寄り／分析／質問／共感／情報収集能力など。「以心伝心。言わなくても分かってるよ！言わなくても分かってね！」は大きな誤解を生みます。思い込みに陥らないでお互いを理解するためには必要な力です。始めからうまい人なんていません。でも練習すれば誰でもうまくなる！

＊「参加協力する力」…責任ある主体的参加が社会の形を決めます。誰かがやってくると思っていると誰もやってくれなかったり、人任せにしていると、自分が考えていたのとは全然違う結果になっていたり。私たちが毎日している無数の選択は、社会や地球に様々な影響を与えます。無関心という選択もありますが、自分の選択が最善のものであることに責任があるのは自分です。どんな参加がどんな社会を創るのか。どんな協力の方法があるのか。お互いの知識や経験から学びあえることは多いはず。

★例えばこんな　知識・意欲・態度　を育む場　★

・地球上に生きる私たちは、物も人も互いに全く無関係には生活できないのだと言う理解と、何がどう相互に依存しているのかの知識。
・自分の物の見方は必ずしも普遍的ではなく、他の人の生き方、習慣、信念を自分の観点で理解したり評価したりすれば誤解や争いの要因となる。異なる見方に対する感性。
・今、地球がどのような状態にあるのか、世界では何が起こりつつあるのかを理解する力。
・健全な社会とはどんな社会を言うのか分かるようになる。
・地球のどこかでなされた選択が、同時に地球の他の地域に影響を及ぼすことを学ぶ。自分が無意識している選択も世界に対して影響を及ぼしている。自分も周りの世界に対して影響力を持った存在であるのだという認識。

これらを踏まえ、行動する主体を育てることを目指す教育が参加型で進める国際理解教育です。

JICA 中部国際センター
開発教育指導者研修／02.11.3
ファシリテーター：山中令子

開発教育指導者研修

つながりに気付きつながりを築く国際理解教育

―「誰が」「誰と」「何を」「何のために」「どうやって」学ぶのか？―

ねらい

○国際理解教育／開発教育とどんなテーマ、どんな概念を扱う教育なのかを、体験を通して理解する。

○総合学習および教育を通して育もうとしている「生きる力」とはどのような力であるのか、今一度具体的に考え共有する。

○学校／地域／家庭など様々な教育現場で国際理解教育／開発教育を進めていくためには、現在何が課題なのかを探り、推進に向けての具体的アイディアを共に考え持ち帰る。

セッション１　体験！国際理解ワークショップ　（１０：３０～１２：３０）

1　アイスブレーキング　（大切なわたし　大切なあなた　大切なみんな）

2　アバウトに地球を知る！　（統計ラインアップ　「地球の数字」）

3　つながりに気付く　（地球の課題　地域の課題　わたしの課題）

セッション２　教育現場で国際理解教育を活かすために　（１３：３０～１５：３０）

1　問題を解決しながら共に生きるために必要な資質　（「生きる力」って何？）

2　課題は何か？　（国際理解教育の推進を阻むものは何か？）

3　必要なもの／大切なこと　できることから始めよう！

4　ふりかえり　次への期待

★ワークショップとは

もともと作業場を表す英語。対等な立場で集まった人々が一共通のテーマについて考えを深め合い、共同で何かを作り出す作業と場。参加者自身が自らの知識や体験をもって積極的に関わるスタイル。ひとり一人がじぶんなりの意見と答えを持ち、それぞれの意見を尊重しあいながらも共通のものを作り上げようとする方法論を持った場のこと。

知識は大切ですが、それ自体が社会に対して責任ある行動を生み出すのではありません。国際理解教育は、知識そのものよりも得た知識や体験から気付いたことを、どのように活かすことができるかを共同作業で探ることに重点を置いています。双方向の対話形式参加型で、お互いの知識や経験、気付きから学び合います。

そのために、一方通行ではなく

参加して学ぶことの良さは第一に「楽しく学べる」ということです。人は「楽しい」と感じる、信頼に満ちた自由な雰囲気の中で、最も多くに気付き学べると言われています。また「自ら考える」「協力して創り出す」ことを繰り返し体験する中で、コミュニケーションの力、分析的な思考力、合意形成能力、課題解決への意欲といったものが、少しずつ養われることをねらいとしています。

地球の数字

★２０世紀の成長と格差

・１９６０年－３０億人　２０００年－６０億人　２０５０年－９０億人（予想）

・現在毎年８０００万人つづ人口増加（インドでは今後５０年間で人口は３倍になると予想される）

・世界人口６１億人　先進工業国の人口　２２％　発展途上国　７８％

・世界全体の富みを１００とすると　先進工業国　８０％　発展途上国　２０％

・世界全体のエネルギー消費量を１００とすると　〃　７１％　〃　２９％

（例えば紙：先進国の一人当たりの紙消費量を３分の１減らすと、途上国の基本的ニーズを満たすことができ、世界全体の消費量を５％減らすことができる。）

・人間一人一日に必要な熱量は２０００～３０００ｋＣａｌ。先進国でこの生活を支えるために社会が利用している「生産から廃棄」までのエネルギーは６２、０００ｋＣａｌ（途上国の１３倍）

・途上国の５人に１人が（７億９千万人）が慢性的飢餓　（毎日３万５千人が餓死　内７割がこどもと女性）

・世界全体では１２億人の飢えた人がおり、１２億人が食べ過ぎの人がいる（肥満人口　６億人）

・アメリカではカロリー摂取量を下げる（ダイエット）のために毎年５０億ドルを特別食に支出している

・世界灌漑地面積：６倍　耕地生産性：３倍　穀物収穫量：４億ｔから１９億ｔ

・世界の一人当りの年間穀物消費量

アメリカ　８００キログラム　世界中の人がこれを望んだら　養えるのは２４億人

インド　２００キログラム　９６億人

・世界の穀物収穫量１９億トンを均等に分配すると、３００キロの穀物を全員が消費可能

・世界の穀物の４割が家畜飼料となる

★成長の限界

・日本の食糧自給率を１００％にするのには１７００万ヘクタールの土地が必要　→　現在５００万

・日本の穀物自給率　１９７０年－６０％　２０００年－３０％（食糧自給率は４２％）

・世界の鳥類（８６１５）の１１％、ほ乳類（４３５５）の２５％、魚類の３４％が絶滅の危機。

・現在一日に１００種のスピードで生物が絶滅している。

・世界の森林の３分の１が熱帯林。地球の全植物の５分の４が熱帯林の中にあり、全動物種の半分が熱帯林に住んでいる。

・もともと１６万平方キロメートルあった地球上の森林は現在６０％が消失し、現在も人間が使う目的で消失し続けている。　消失の理由：世界人口の半分近くが調理・暖房の燃料を薪（森林）に求めている。
世界中の工業国で使用されている木材の５分の１が熱帯雨林から供給
工業国へ輸出する牛飼育、または家畜の飼料のための耕作地に転用

・一トンの穀物を生産するのに、約１０００トンの水が必要

・世界的に地下水資源の枯渇が起きている（在供給される倍のスピードで水を使用している）

・地下水資源の減少がもっとも著しいのはインドと中国

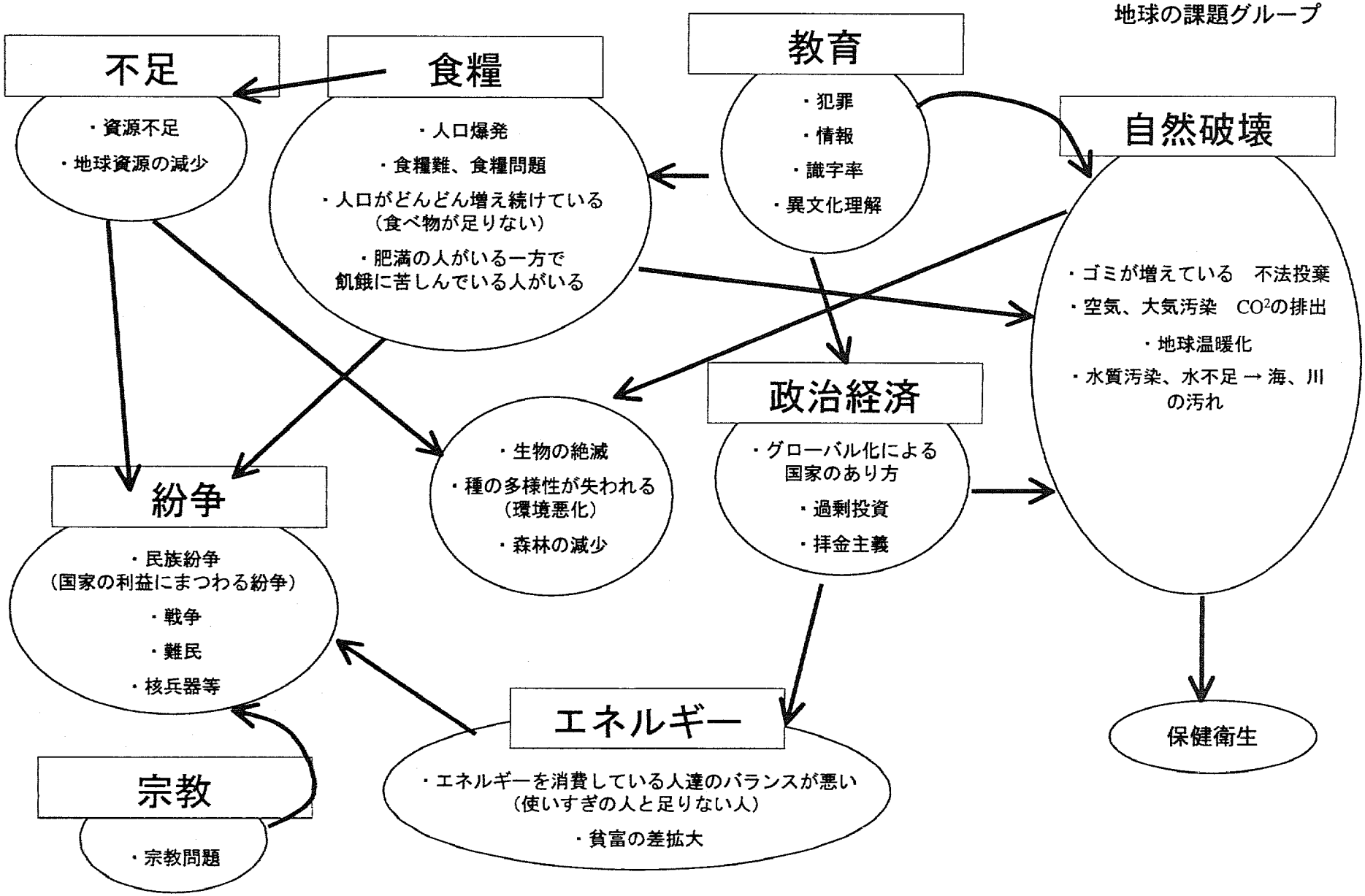
インドでは今後の人口増加に伴う水需要増による帯水層の枯渇によって、穀物生産量は２５％減少すると予想されている。中国の穀物の４０％を生産する華北平原では、地下水位が１年に１．６ｍずつ低下している。いずれ中国は世界の穀物市場を混乱させかねない規模での穀物輸入が必要になるかもしれない。

（参考資料：ワールドウオッチ地球白書２０００～２００１）

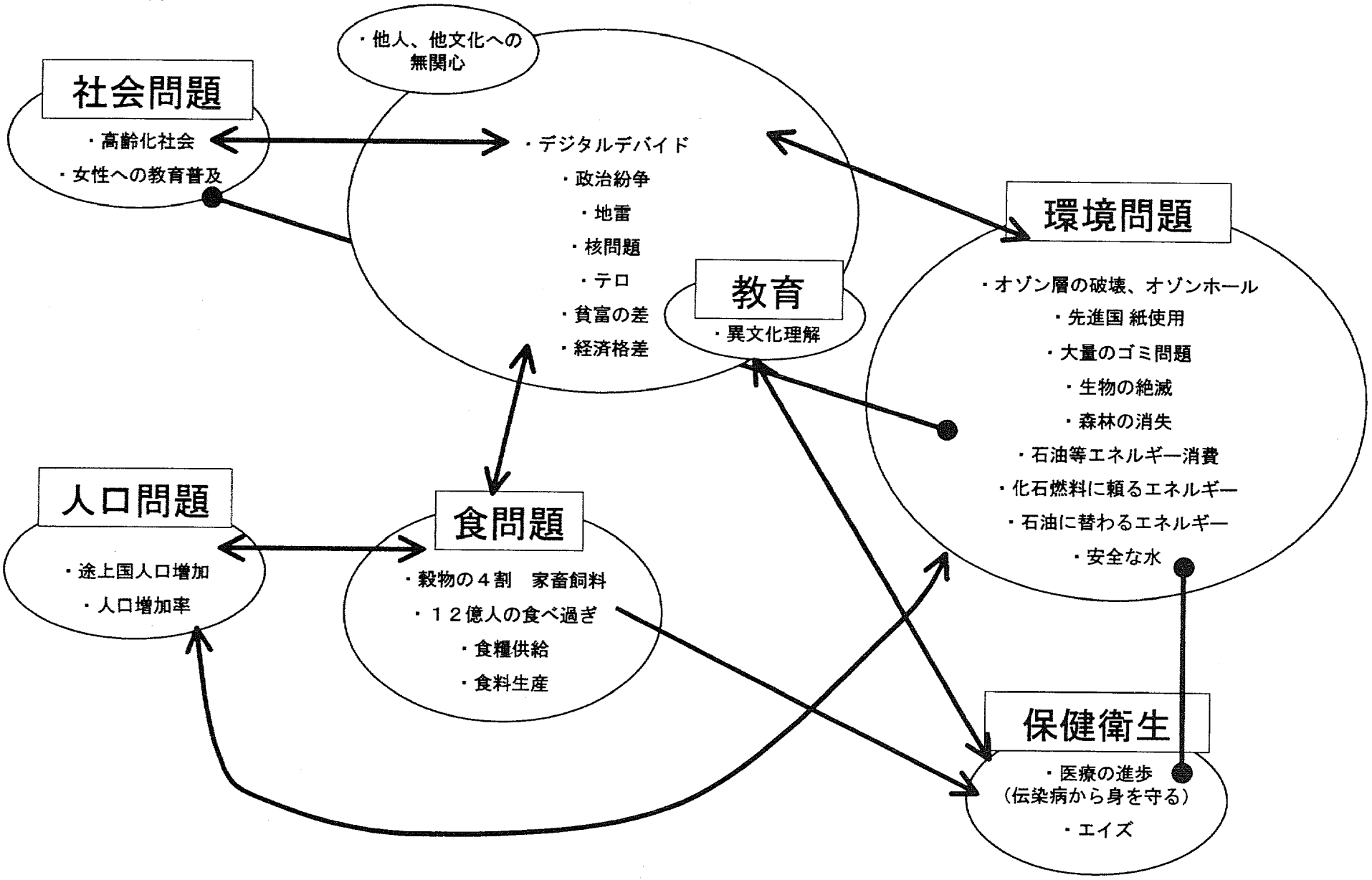
セッション１　「体験！国際理解ワークショップ」

つながりに気付く（地域の課題　地球の課題　わたしの課題）　参加者グループワークまとめ

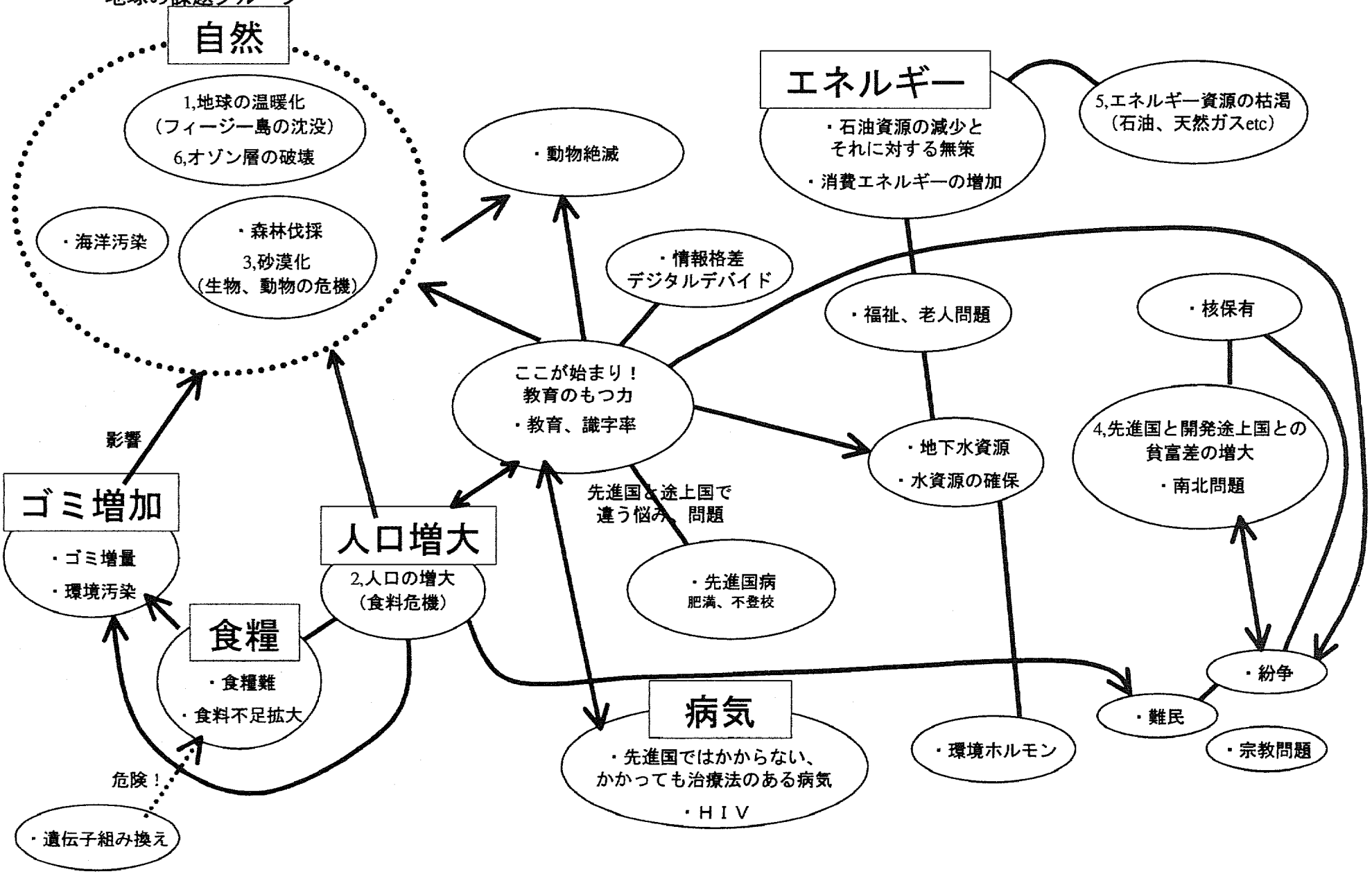
地球の課題グループ



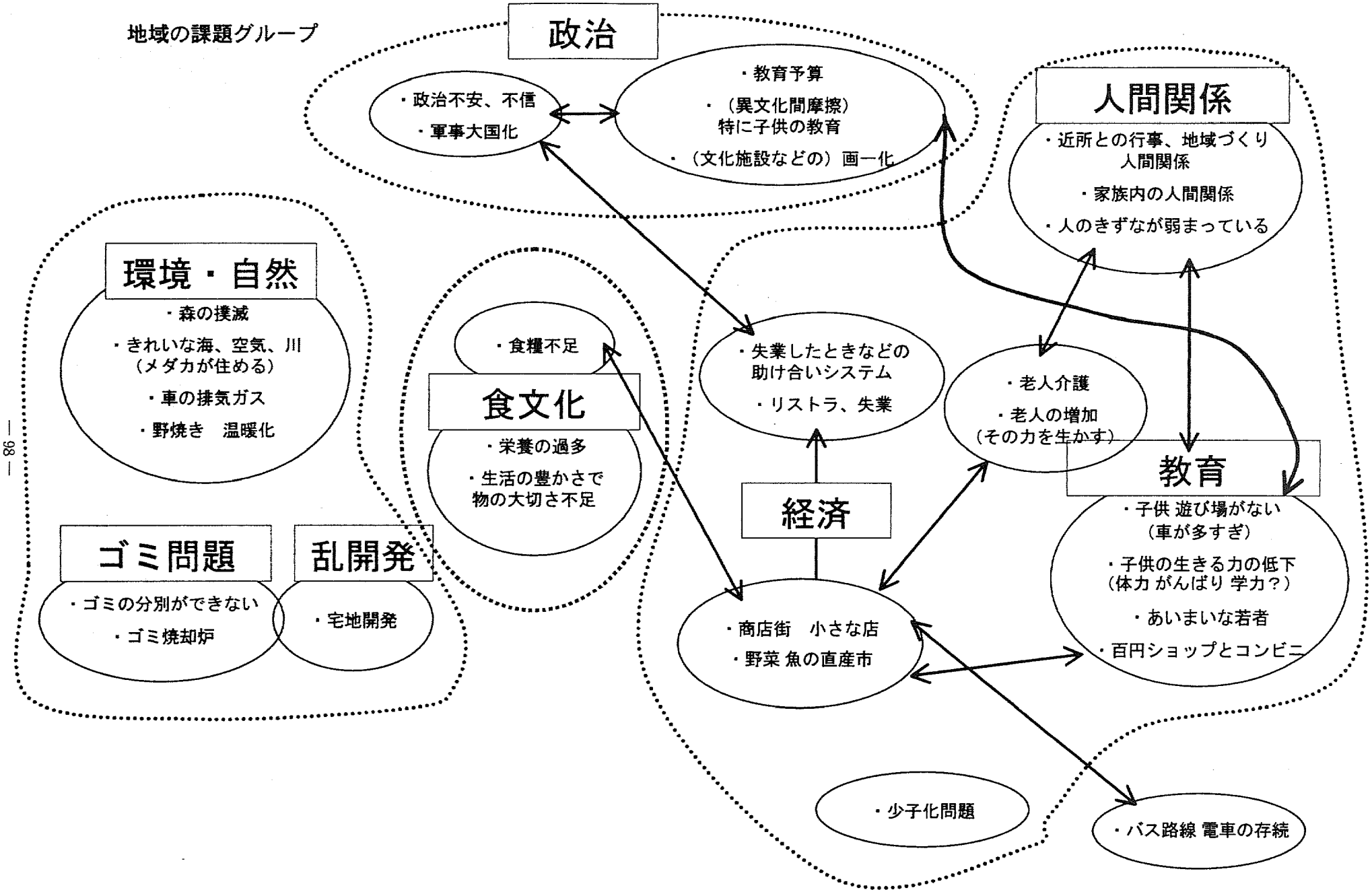
地球の課題グループ


・他人、他文化への無関心
社会問題
・高齢化社会
・女性への教育普及
・デジタルデバイド
・政治紛争
・地雷
・核問題
・テロ
・貧富の差
・経済格差
教育
・異文化理解
環境問題
・オゾン層の破壊、オゾンホール
・先進国 紙使用
・大量のゴミ問題
・生物の絶滅
・森林の消失
・石油等エネルギー消費
・化石燃料に頼るエネルギー
・石油に替わるエネルギー
・安全な水
人口問題
・途上国人口増加
・人口増加率
食問題
・穀物の４割　家畜飼料
・１２億人の食べ過ぎ
・食糧供給
・食料生産
保健衛生
・医療の進歩
（伝染病から身を守る）
・エイズ

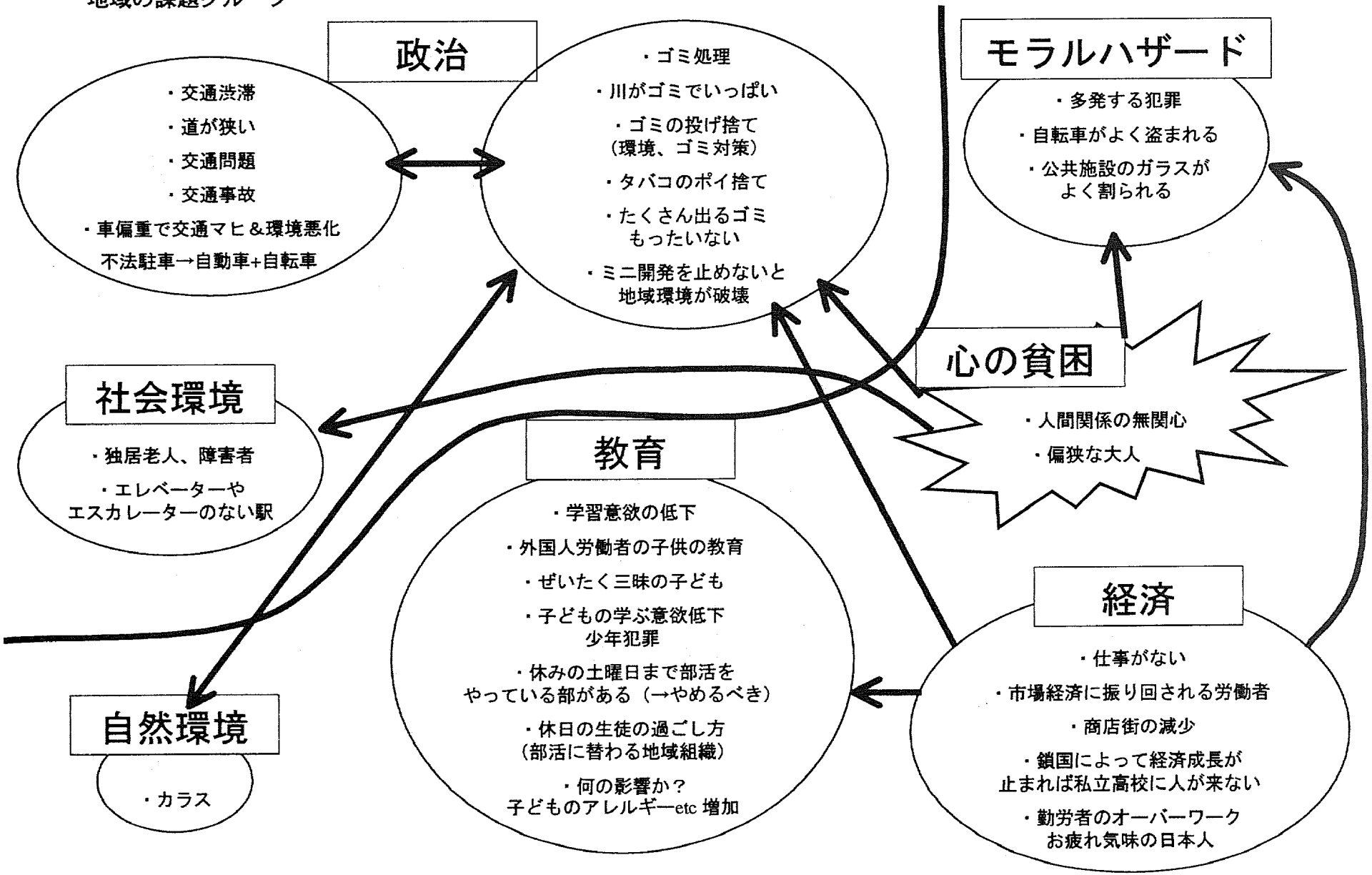
地球の課題グループ


自然
1,地球の温暖化
（フィージー島の沈没）
6,オゾン層の破壊
・海洋汚染
・森林伐採
3,砂漠化
（生物、動物の危機）
・動物絶滅
エネルギー
・石油資源の減少と
それに対する無策
・消費エネルギーの増加
5,エネルギー資源の枯渇
（石油、天然ガスetc）
・情報格差
デジタルデバイド
・福祉、老人問題
・核保有
ここが始まり！
教育のもつ力
・教育、識字率
・地下水資源
・水資源の確保
4,先進国と開発途上国との
貧富差の増大
・南北問題
影響
ゴミ増加
・ゴミ増量
・環境汚染
人口増大
2,人口の増大
（食料危機）
先進国と途上国で
違う悩み、問題
・先進国病
肥満、不登校
食糧
・食糧難
・食料不足拡大
病気
・先進国ではかからない、
かかっても治療法のある病気
・ＨＩＶ
・紛争
・難民
・環境ホルモン
・宗教問題
危険！
・遺伝子組み換え

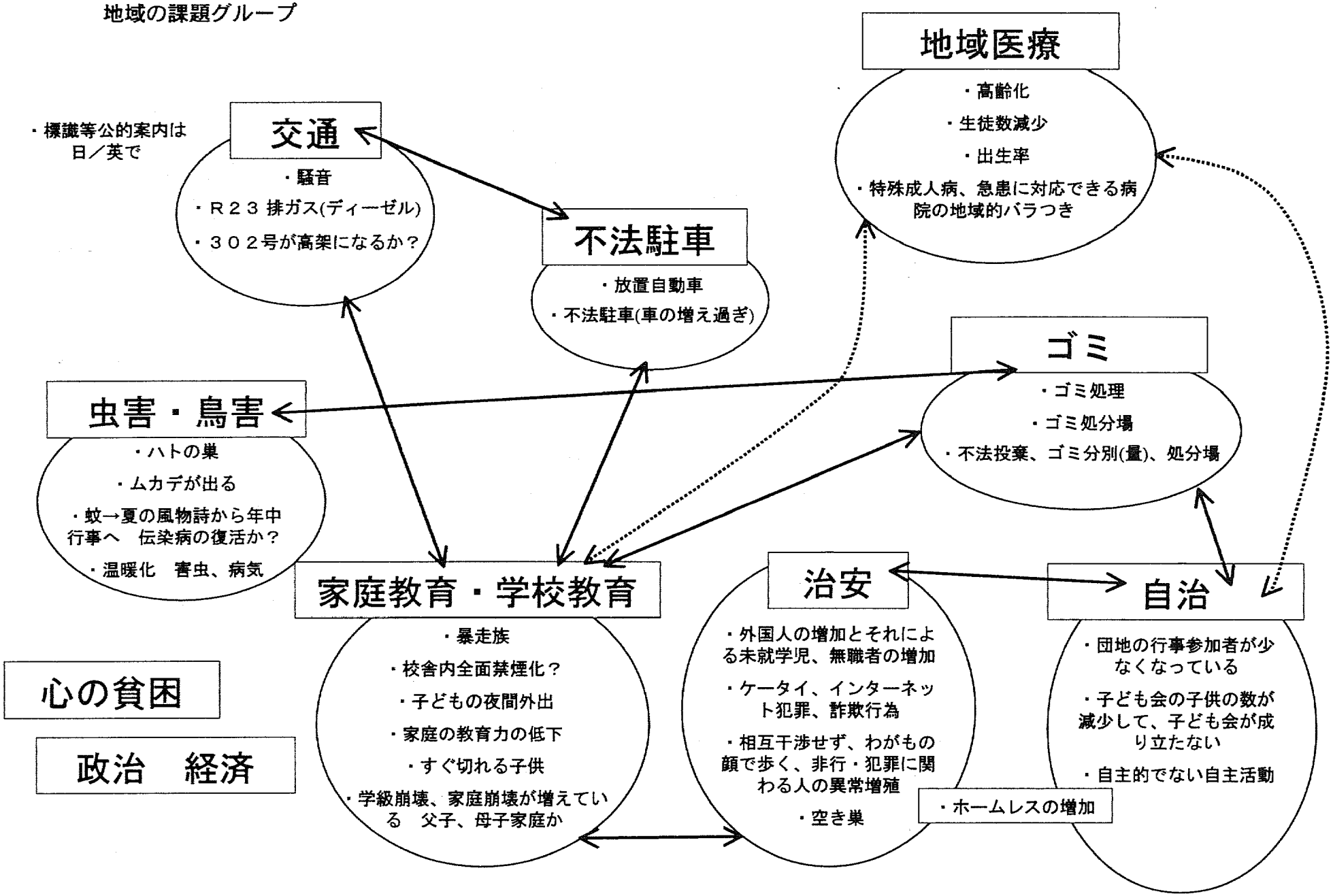
地域の課題グループ


政治
・政治不安、不信
・軍事大国化
・教育予算
・（異文化間摩擦）
特に子供の教育
・（文化施設などの）画一化
人間関係
・近所との行事、地域づくり
人間関係
・家族内の人間関係
・人のきずなが弱まっている
環境・自然
・森の撲滅
・きれいな海、空気、川
（メダカが住める）
・車の排気ガス
・野焼き　温暖化
食文化
・食糧不足
・栄養の過多
・生活の豊かさで
物の大切さ不足
・失業したときなどの
助け合いシステム
・リストラ、失業
・老人介護
・老人の増加
（その力を生かす）
経済
教育
・子供 遊び場がない
（車が多すぎ）
・子供の生きる力の低下
（体力 がんばり 学力？）
・あいまいな若者
・百円ショップとコンビニ
ゴミ問題
・ゴミの分別ができない
・ゴミ焼却炉
乱開発
・宅地開発
・商店街　小さな店
・野菜 魚の直産市
・少子化問題
・バス路線 電車の存続

地域の課題グループ


政治
・交通渋滞
・道が狭い
・交通問題
・交通事故
・車偏重で交通マヒ＆環境悪化
不法駐車→自動車+自転車
・ゴミ処理
・川がゴミでいっぱい
・ゴミの投げ捨て
（環境、ゴミ対策）
・タバコのポイ捨て
・たくさん出るゴミ
もったいない
・ミニ開発を止めないと
地域環境が破壊
モラルハザード
・多発する犯罪
・自転車がよく盗まれる
・公共施設のガラスが
よく割られる
心の貧困
・人間関係の無関心
・偏狭な大人
社会環境
・独居老人、障害者
・エレベーターや
エスカレーターのない駅
教育
・学習意欲の低下
・外国人労働者の子供の教育
・ぜいたく三昧の子ども
・子どもの学ぶ意欲低下
少年犯罪
・休みの土曜日まで部活を
やっている部がある（→やめるべき）
・休日の生徒の過ごし方
（部活に替わる地域組織）
・何の影響か？
子どものアレルギーetc 増加
経済
・仕事がない
・市場経済に振り回される労働者
・商店街の減少
・鎖国によって経済成長が
止まれば私立高校に人が来ない
・勤労者のオーバーワーク
お疲れ気味の日本人
自然環境
・カラス

地域の課題グループ


地域医療
・高齢化
・生徒数減少
・出生率
・特殊成人病、急患に対応できる病院の地域的バラつき
・標識等公的案内は日／英で
交通
・騒音
・Ｒ２３ 排ガス(ディーゼル)
・３０２号が高架になるか？
不法駐車
・放置自動車
・不法駐車(車の増え過ぎ)
ゴミ
・ゴミ処理
・ゴミ処分場
・不法投棄、ゴミ分別(量)、処分場
虫害・鳥害
・ハトの巣
・ムカデが出る
・蚊→夏の風物詩から年中行事へ　伝染病の復活か？
・温暖化　害虫、病気
家庭教育・学校教育
・暴走族
・校舎内全面禁煙化？
・子どもの夜間外出
・家庭の教育力の低下
・すぐ切れる子供
・学級崩壊、家庭崩壊が増えている　父子、母子家庭か
治安
・外国人の増加とそれによる未就学児、無職者の増加
・ケータイ、インターネット犯罪、詐欺行為
・相互干渉せず、わがもの顔で歩く、非行・犯罪に関わる人の異常増殖
・空き巣
自治
・団地の行事参加者が少なくなっている
・子ども会の子供の数が減少して、子ども会が成り立たない
・自主的でない自主活動
・ホームレスの増加
心の貧困
政治　経済

セッション２　「教育現場で国際理解教育を活かすために」

課題は何か？（国際理解教育の推進に必要なもの）　参加者意見のまとめ

・情報収集力
・人とのつながりを築く
・根気
・イマジネーション
・生命力
・働く意欲
・宗教心
・創造力
・哲学
・体力
・考える力
・謙虚
・克己心
・忍耐力
・理解力
・他者理解
・共感する

・経済力
・希望を持つ
・元気
・前向き
・抑制力
・勇気
・自己犠牲
・識字力
・感受性
・社会のしくみを理解する
・責任感（次世代への）
・言葉を使う力（３カ国語くらい）
・決断力

・奉仕の心
・危機意識
・構想力
・探求心
・ボディーランゲージ
・めげない
・次善策を出す力
・献身
・自立心
・共に生きる力
・表情豊か
・気力

・やる気
・素直
・仲間意識
・広い視野
・コミュニケーション
・好奇心
・人と自然を大切
・経験に学ぶ力
・自己理解
・自己尊重
・行動力
・健康
・判断力
・企画力
・知識
・先見性
・問題解決力

・挑戦欲
・発表力
・正義感
・思いやり
・独立心
・人を愛する力
・徳を養う力
・許容力
・洞察力
・慈愛
・博愛
・説得力
・誇り
・やさしさ
・のんき
・おおらかさ

・人権意識
・自分を褒める力
・他者を褒める力
・礼儀
・誠実さ
・信念を持つ

セッション２　「教育現場で国際理解教育を活かすために」

必要なもの／大切なこと　できることから始めよう！　参加者グループワークのまとめ

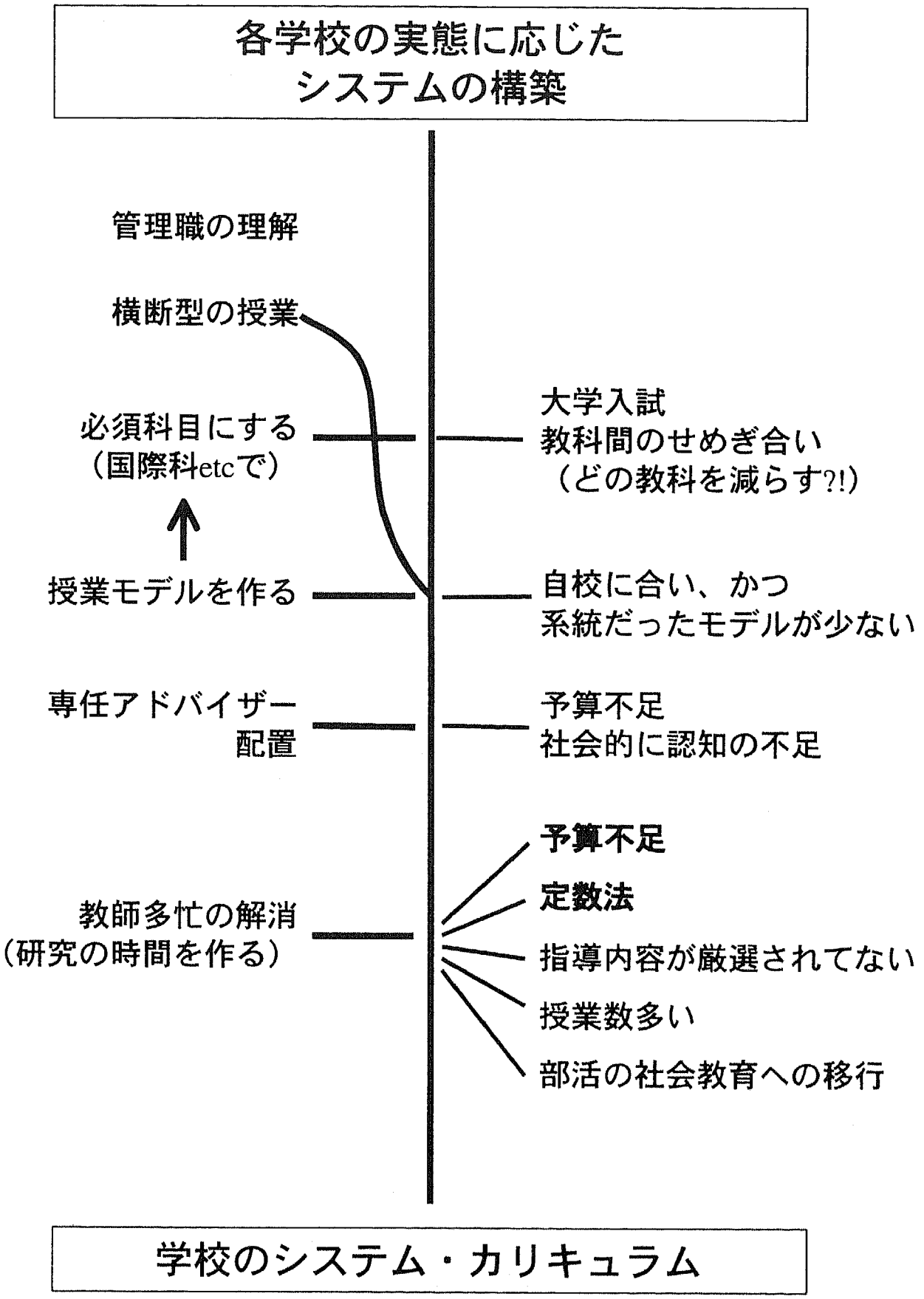
＋	－
・ちょっと実力主義、社会 ・職人に対する評価 ・センター試験制度の改善 ex 資格試験etc ・親、社会、教員の意識を変える	・学校のランクづけ ・効率主義 （ムダなことをしない） ・思いやり欠如 ・価値観（勝ち負け） ・学歴社会 ・競争社会

下段：国際理解教育（開発教育）の推進にとって最も課題となっているもの

上段：下段の課題解決のための方策

＋（左の段）：課題解決のための方法
－（右の段）：現在の課題

受験体制


各学校の実態に応じた
システムの構築
管理職の理解
横断型の授業
必須科目にする
（国際科etcで）
授業モデルを作る
専任アドバイザー
配置
教師多忙の解消
（研究の時間を作る）
大学入試
教科間のせめぎ合い
（どの教科を減らす?!）
自校に合い、かつ
系統だったモデルが少ない
予算不足
社会的に認知の不足
予算不足
定数法
指導内容が厳選されてない
授業数多い
部活の社会教育への移行
学校のシステム・カリキュラム

各学校の実態に応じた
システムの構築

・実績・成果での説得

・教員の視野の拡大

・地域のニーズの把握

人脈でカバー

・（学校の）教育目標の見直し

・児童生徒の実態把握

・カリキュラムの整理

・受験偏重？

・画一的指導

・保護者の要望
意識

・本音とタテマエ

・予算のしばり

・「学校」へ求められるものが多すぎなのでは？

多すぎる達成目標

共通理解・協力体制

・外部の行事や施設、団体への参加（エッセーコンテスト、フェスティバル、弁論大会etc）

・小規模な実践から、行事とからめて大きな取り組みへ

・全教師公開授業
（他教科の授業実践を空きの教師が見る）

・教科間の連携
（共同で企画、授業実践）

・AETの活用
（時間、AETの質、授業以外の交流）

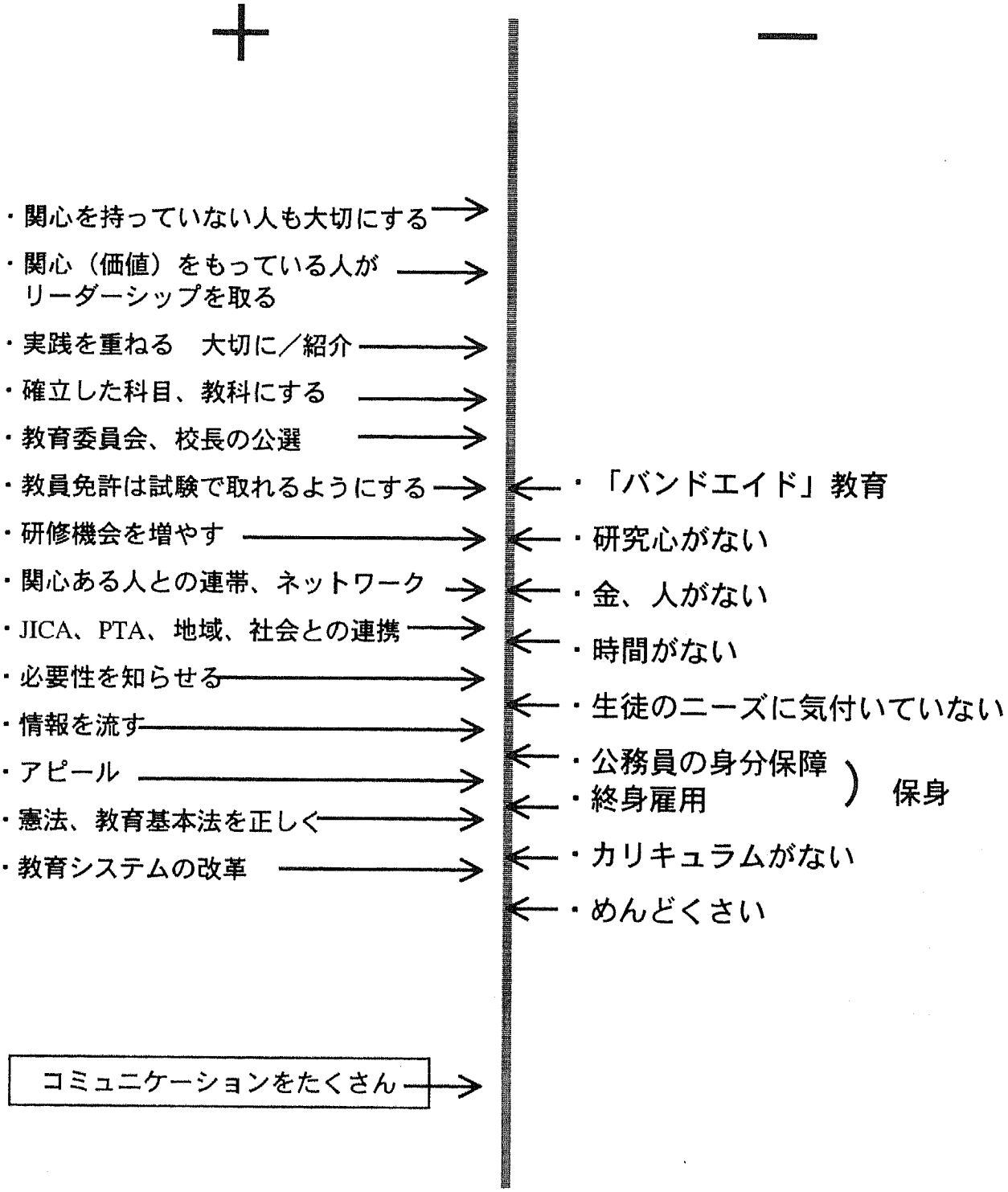
・外国人の招へい

・外部の学習会への参加
（生徒代表も）

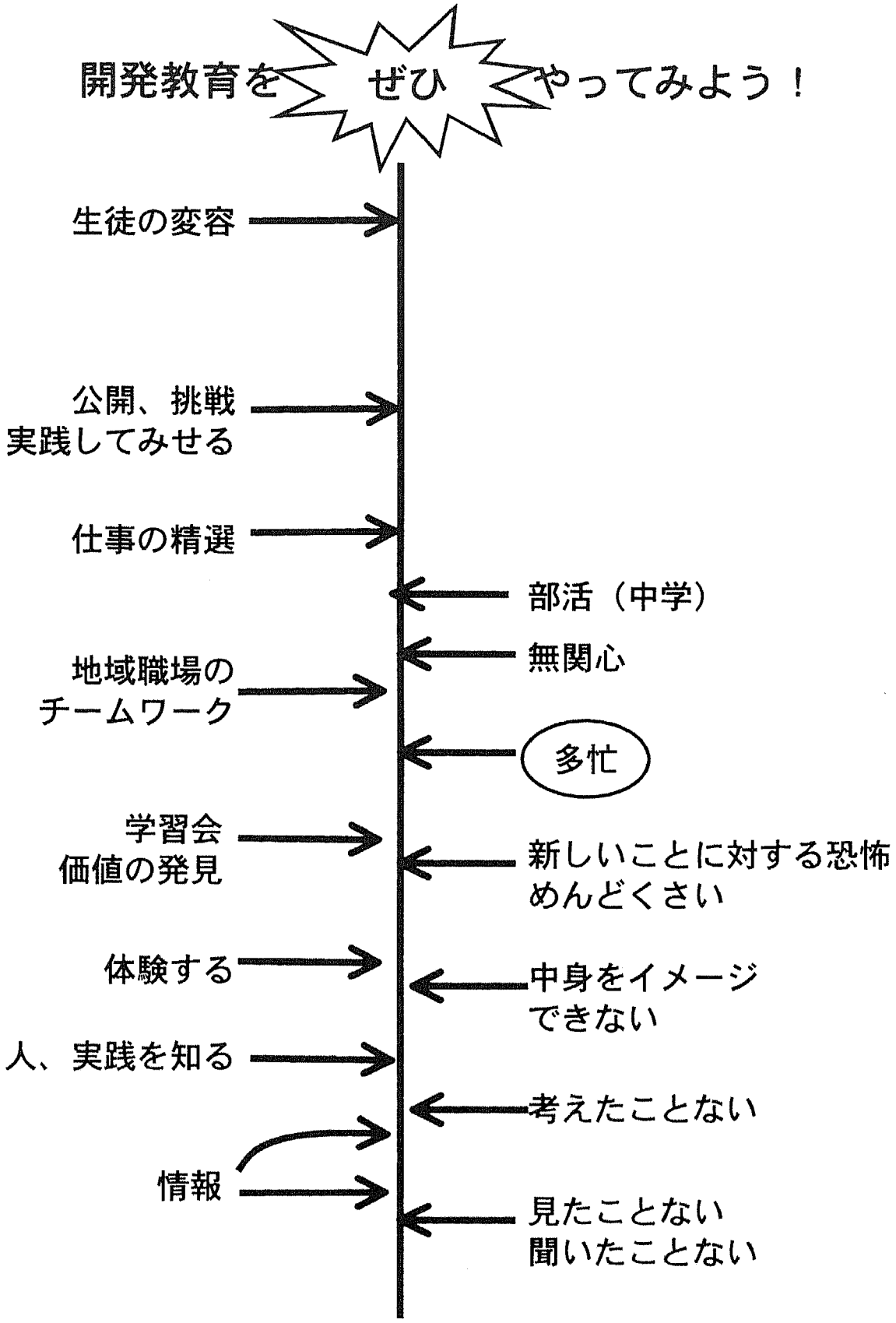
・現職教育
（講演、ワークショップ）

無関心

関心・価値観の共有



無関心、価値観


開発教育を
ぜひ
やってみよう！
生徒の変容
公開、挑戦
実践してみせる
仕事の精選
部活（中学）
無関心
地域職場の
チームワーク
多忙
学習会
価値の発見
新しいことに対する恐怖
めんどくさい
体験する
中身をイメージ
できない
人、実践を知る
考えたことない
情報
見たことない
聞いたことない

開発教育って何？